

森羅万象ことごとく神性・仏性は遍在す

よって、自己の内なる神性・仏性を尊び、生活保護の活用で生の転換を

偏在でなく、遍在するものは、無であり有である。故に信と・・・

「内なる神性・仏性」の証明は？

人の唯一性の元は、クソ袋である肉体・五感を基盤とした、意識・記憶の継続であるとしします。

人の記憶の始まりは、たいていの場合、人や物との関わりだと思われます。

そして、記憶の始まりは、自分と他者（人であれ物であれ）を区別して認識する始まりでもあります。

試みに、それぞれで、自分の最も古い記憶を探ってみてください。もし、一人ポツンという自分の姿が

浮かび上がったとしても、その時に抱いていた感情、不安とか、誰かを呼んでいる姿であるとか、一人ポツ

ンとしている状況に伴う、感情や行動も一緒に思い出しているはずす。それは、他者と自己を区別して

いるということであり、他者との関係性を示しています。

皮膚で他者と区切られた肉体を持ち、行動する人の記憶は、その人限りの唯一性を持ちます。

たとえば、10 人が一つの交通事故を見たとしても、それを間近にみたか、離れたところで見たか、過去に

交通事故を起こした経験があるかなどなどによって、一つの事故から語られることは、一つの物語ではなく、10 の物語になる、というように・・・。

記憶の中身が、誰か、あるいは何かとの関わりで生じる行動、感情の動きであることは、自分の記憶を思い起

こしていただければ、すぐ分かることだと思います。そのことは、人の記憶が、関係性を含み持つものであるこ

と、他者（人であれ物であれ）が、その人の中に生きているということを示します。

関係は、相互作用であり、相手があることを意味しますから、他者の記憶を含む自己は、また、関係した他者

の中でも生きていることを示します。自己の記憶に相手が留まるのと同様に、相手の記憶に留まる限りにおい

て。人の後悔とは、他者の中に行き続ける自己を消しきりたい、訂正したいという、果たしえぬ思いのことだとも

いえます。さて、人は、戻すことの出来ない時間の流れの中で、

生き続ける、とされています。

記憶は、過去から現在に続く蓄積のことですから、自己が記憶の連続性の上に成り立っていることが真理であれば、人が逆行することなく、過去から現在へ、そして、未来へ、流れて生きていくことしか出来ないことも真理です。

一個人の生は、期間限定です。無期限の生はありえないとされています。

しかし、有期限しか生きられない人の中に、気の遠くなる記憶が存在しています。それは遺伝子といわれるものです。

人は、人から生まれ死ぬ命の連鎖ですから、遺伝子は太古の昔から引き継がれてきています。それは、命の発生、始原から引き継がれています。

ところで、神・仏の本質は何でしょうか。

すべての物事の始まりであり、唯一の存在、簡単に言えば、そういうことではないでしょうか。

であるとすれば、他者と取替えようのない記憶を持つ唯一者である個人、太古からの生命の記憶を継承している個人は、生来的に、神性・仏性を備えている、といえます。

自分の中に存在する神・仏は、すべての人の中に存在します。遍在する神・仏は、意識されえないけれども、存在します。自己の中の神・仏を尊び、自己の肉体や精神をいためる環境からは遠ざかるよう勤めましょう。生活保護活用！

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

以下は、広辞苑から

ぶっ - しょう【仏性】〔仏〕一切衆生が本来もっている仏としての本性。如来蔵。涅槃經

「一切衆生悉有(しつう)一」――

しん - せい【神性】――ところ。精神。――(divinity) 神の性格。神の属性。

へん - ざい【偏在】かたよって存在すること。ある場所にかたよってあること。

へん - ざい【遍在】広くあちらこちらにゆきわたってあること。

しんら - ばんしょう【森羅万象】宇宙間に存在する数限りない一切のものごと。

人は、人をいためてはならない。また、同じように、自分自身を痛めてはならない。

なぜならば、それぞれに、神・仏の住まいし 宮 なればなり・・・・

クソ袋は、クソ袋にして、クソ袋にあらず